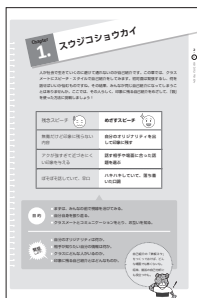


Chapter 1. スウジコショウカイ

<「わたしの数字」から語る、記憶に残る自己紹介スピーチ>

「自己紹介で何を話せばよいかわからない」と悩む学生は多く、結果皆が同じ内容になりがちです。今回は教師側から「自分を表す数字を使う」というトピックを与えることで、他人とは違う自分だけの内容を探り、それぞれの個性を表しやすくしようと考えました。学生には、自己開示のバランスをとりながらオリジナリティを出すよう指導してください。今回は「数字」にしましたが、もちろん他の切り口もあるはずです。将来の就職活動などに向けて、いろいろと考えてみるといいでしょう。

このスピーチが、それぞれの個性を知り、今後の学生どうしのコミュニケーションのきっかけになるよう期待しています。最後には活動全体をふり返り、各自が自分のスピーチを再考する時間を設けます。教師からも学生用テキストの別冊「自己評価シート」に一言コメントを入れ、今後のプレゼンテーションに意欲が出るよう、指導してあげてください。



学習目的
★ まずは、みんなの前で視線を浴びてみる。 ★ 自分自身をふり返り、自分のオリジナリティを考える。 ★ クラスメイトとコミュニケーションをとり、お互いを知る。 ★ 印象に残る自己紹介について考える。
時間管理（1回の授業を90分と想定）
1回目……………スピーチの準備 2回目以降………発表
発表形式
1人ずつの発表（各人1～2分）
準備するもの
① 教師の数字リスト例（ テキスト p.25） ② 相互評価シート（発表者の人数×聞き手の人数） →このPDFのp.18

授業の進め方の例と注意点

● 1 回目 ＜スピーチの準備＞

順序	所要時間の目安	大まかな流れ	テキスト
0.	10～20分	(1) アイスブレイキング・アクティビティ「あなたはどっち派？」 (2) グループ分けアクティビティ	ヒント集限定！ 
1.	10～20分	グループでアクティビティ（アイスブレイキング・アクティビティ）「ウォーミングアップ！」（自己紹介2種）	p.24
2.	5～10分	個人でワーク「数字リストを作ろう！」	p.25
3.	10～20分	グループでワーク「数字リストについての説明と質疑応答をしよう！」	p.26
4.	10～20分	個人でワーク「スピーチ（1～2分）の準備を進めよう！」（宿題可）	p.27
5.	（残りの時間）	発表についての確認	—

0-1. アイスブレイキング・アクティビティ：「あなたはどっち派？」 [15分程度]

目的	少し体を動かし、互いに顔見知りになっていくことで、緊張をほぐす。自分について振り返るきっかけにする。 ※ 初対面どうしにいきなり協力体制をとらせようとしても難しい。少しでも「知り合った」印象を持たせ、話すきっかけができるよう指導したい。
手順と注意点	出されたトピックについて、自分が A または B のどちらに近いか考え、大きく 2 つに分かれるアクティビティ。 手順 (1) 学習者を全員立たせ、動けるようにスペースを作る。 (2) 教師は 1 つずつトピックを出し、学習者がどちらに動けばよいか指示する。 黒板の左側に「A 派」、右側に「B 派」などと板書してもよい。 トピック例 ①寝るときは：A. ベッドがいい派／B. 布団がいい派 ②好きなのは：A. 青空派／B. 夕焼け空派 ③アメを：A. 最後までなめる派／B. 途中でかむ派 ④風邪をひいたら：A. 薬で治す派／B. 自力で治す派 ⑤紙袋や包装紙を：A. すぐに捨てる派／B. 大事にとっておく派 ⑥スポーツは：A. 団体競技派／B. 個人競技派

手順と注意点	⑦仕事で重要なのは：A. 結果派／B. 過程派 ⑧目の前にお年寄りと妊婦さんが立っています。席を譲るとしたら：A. お年寄り／B. 妊婦さん ⑨好きなのは：A. 必要な物以外は置かない、シンプルな部屋／B. 自分の好きな物をたくさん集めて飾った部屋 ⑩落ち込んだときや暗い気持ちのときは：A. 一人、部屋で静かに過ごす／B. 友達と一緒ににぎやかに過ごす ⑪新入社員を選ぶなら：A. 自分の得意なことや能力を、積極的にアピールする人／B. 自分からはあまり話さない人 ⑫レストランで注文したものに髪の毛が入っていたら：A. 髪の毛を自分で取って、そのまま食べる／B. 店員さんに言って、新しい物と取り換えてもらう ⑬初めてのデートでお好み焼きを食べに行った。食事の後、彼／彼女の歯に青のりがついていることに気がついた。 A. 気づかないふりをして、そのまま過ごす／B. すぐに教えてあげる ※ 上の例の他にも、「ペチャクチャ質問集」(⇒テキストの付録 1.)などを参考にするとよい。 ※ どうしても A か B に決められない場合は、真ん中に立ってもよい。 ※ 「なぜ A / B を選んだか」の理由を聞いたり、学生からトピックを出させたりしてもよい。 ※ 学生から質問が出た場合や何か言いたげな場合は、その都度取り上げる。例えば⑫や⑬などで B を選んだ学生には、どのような言い方をするかなど聞くと、さまざまなコミュニケーションのしかたがあることに気づける。
---------------	---

0-2. グループ分けアクティビティ [5 分程度]

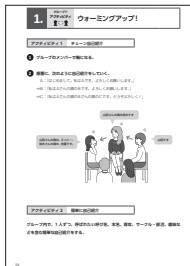
目的	少し楽しみながらグループ分けをする。今回の授業を進めていく協働学習のメンバーを決定する。
手順と注意点	手順 案 1：「数で集まる」 学生を自由に歩かせる。その途中で教師が適当な人数を指示。学生は、その人数で集まったらしゃがむ／または手を挙げる。これを数回くり返し、最後に「3 人」あるいは「4 人」と指示を出し、グループを作らせる。 ポイント・注意点 ※学生が歩き回れる十分な空間を作っておき、ケガがないよう注意する。 案 2：「くじ引き」 あらかじめ 3 ～ 4 人程度のグループになれるようくじを作っておき、学生に引かせる。

1. グループでアクティビティ（アイスプレイング・アクティビティ）：ウォーミングアップ！ [10～20分]

ワークの目的

緊張をほぐしながら
グループのメンバー
を知る。協働学習の
基盤をつくる。

テキスト p.24



自己紹介ワーク 2 種類

手順

- (1) グループ分けアクティビティで分かれたグループで一緒に座らせる。この回はこのメンバーで進めていくため、しっかり協力し合うように確認する。
- (2) ワークの進め方と注意点、目的などについて確認する。
- (3) グループのメンバー内で輪になり、「アクティビティ 1 チェーン自己紹介」をさせる。
最初の人「私は〇〇です」と自分の名前を言う。次の人は、最初の名前を言った後に続けて自分の名前を言う。「私は、〇〇さんの隣の～です。」
その次の人は、いちばん最初の名前からすべて言わなければいけない。「私は、〇〇さんの隣の、～さんの隣の、△△です。」
- (4) 1 人ずつ、呼ばれたい呼び名、本名、専攻、サークル・部活、趣味などを話す「アクティビティ 2 簡単な自己紹介」をさせる。

ポイント・注意点

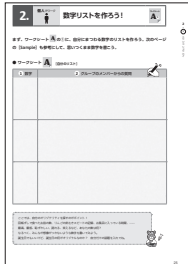
- ※ 「チェーン自己紹介」は 3、4 人だとすぐ終わってしまうので、隣のグループと合わせてやってもよい。大人数で行うと難しいうえ時間がかかるので、学習者の様子を見ながら人数は適宜調整する。早く終わったグループは逆周りで言うのもよい。
- ※ (4) の自己紹介で、話す内容を指定せず自己紹介をさせてみる方法もある。その後、どんな自己紹介をしたか、みんなが似通った話をしていなかったか確認しておく。そして、スピーチがすべて終わった後に、このときの自己紹介と比べてオリジナリティや印象がどのように違ったか比較させることもできる。

2. 個人でワーク：数字リストを作ろう！ [5 ～ 10 分]

ワークの目的

スピーチの話題探しの準備と雰囲気づくり。

テキスト p.25



各自の数字リスト作成

手順

(1) ワークの進め方と注意点、目的などについて確認する。

(2) 教師があらかじめ自分のリストを作成しておき、それを見せながら、何の数字かを説明する。サンプルを参考に、悪いほうの記録やくだらないことでもよいことを伝える。

(3) 各自、【ワークシート A】の①に自分の数字を書き込み、リストを作成させる。
※ 何か数字かは、3 で口頭で説明するので、ここでは数字のみでよい。

ポイント・注意点

※ スピーチは堅苦しいもの、というイメージをつけてしまうと、学生の頭が固くなってしまっているので、教師も自己開示をし、できるだけ自由に話せる雰囲気づくりに努める。

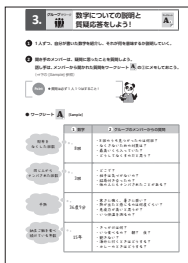
※ 今回は「数字」という切り口にしたが、これを機に他にもオリジナリティを出せるものを探してみるとよい。

3. グループでワーク：数字についての説明と質疑応答をしよう！ [10 ～ 20 分程度]

ワークの目的

自分の頭の中にあるものを言葉にして伝える。相手の話をよく聞く。自分らしい話題を探ったり、聞き手の反応を知る。

テキスト p.26



数字についての説明と質疑応答

手順

(1) ワークの進め方と注意点、目的などについて確認する。

(2) テキストの手順 (①～②) に沿ってワークを進めさせる。

① 1 人 1 つずつ自分が書いた数字を紹介し、それが何を意味するか説明していく。

② 聞き手のメンバーは、疑問に思ったことを質問する。話し手は、メンバーから聞かれた質問を【ワークシート A】の②にメモしておく。

ポイント・注意点

※ 1 人最低 1 つは質問をするように促す。

※ 1 人 1 つずつ説明していく方法と、1 人ずつすべての数字について説明していく方法がある。1 つの数字について少し長めに説明するなら、前者のほうが飽きがこず、時間のバランスもよい。後者の場合、話し手は一言で説明を終わらせ、聞き手は特に気になったことについて質問していく。そうすると、どの質問が聞き手の興味をそそるのがわかりやすい。

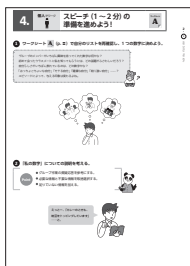
※ 1 人であまり長く話している場合は、次のメンバーに回すよう促す。

4. 個人でワーク：スピーチ（1～2分）の準備を進めよう！ [10～20分程度]

ワークの目的

準備をしっかりすることで内容の吟味を行う。スピーチへの心構えを作る。
聞き手が聞きたいと感じる自分の情報と、自分が知ってほしいと思う自分の情報とを整理する。

テキスト pp.27-29



スピーチ準備作業

手順

- (1) ワークの進め方と注意点、目的などについて確認する。
- (2) テキストの手順(①～④)に沿ってワークを進めさせる。
 - ①【ワークシートA】で自分のリストを再確認し、1つの数字に決める。
 - ②「私の数字」についての説明を考える。
 - ③ **テキスト** p.29【アウトラインシート】を参考にアウトラインを書く。

ポイント・注意点

- ※ 選ぶのはあくまでも自分だが、グループワークの質疑応答でメンバーの反応が良かったものを参考にするとよい。
- ※ 聞き手と場所にふさわしい内容か、また自分のどんな面を知ってほしいのか、熟考するように促したい。例えば、「財布をよくなくす」数字を紹介すれば、「おっちょこちょい」「忘れっぽい」イメージになる。
- ※ 必要な情報と不要な情報を取捨選択する。
- ※ 最初のスピーチなので、1～2分程度で終わるものでよい。
- ※ 話す内容を一度全部書きたがる学習者もいるが、発表のときにそれを読んではいけないことを確認。長い文章ではなく、箇条書きやキーワードなど、簡潔な言葉で記入するよう指導する。そうすることで発表時の丸読みを避け、目線を聞き手に向けることができる。(**テキスト** Part1 Chapter2 参照)
- ※ 次の回までに練習してくることを指示。特に今回のスピーチでは、
 - ・「私の数字は～です」と、数字をハッキリ言う
 - ・なるべく落ち着いて話す
 - ・笑顔で話すことを目標にするよう意識させる。

● 2 回目 <発表>

順序	所要時間の目安	大まかな流れ	テキスト
1.	10 分	発表前の確認事項	ヒント集限定！ 
(2.)	(10 ～ 20 分)	(個人作業「リハーサル」)	ヒント集限定！ 
3.	残りの時間	個人発表と相互評価	ヒント集限定！ 
4.	5 分	宿題の確認	ヒント集限定！ 

1. 発表前の確認事項 [10 分]

目的

発表者と聞き手双方の心構えをつくる。

用意するもの

相互評価シート
[→ PDF p.18]
(発表者の人数 × 聞き手の人数)

タイマー

残り時間を伝えるカード

手順

(1) 発表のルールを説明する。

- ・ ビジュアル・エイドを使ってもよいが、目線に注意する。
- ・ アウトラインを確認してもよいが、原稿は読まないこと。
- ・ 制限時間を確認する。制限時間より早く終わってしまった場合、制限時間を超えてしまった場合のルールを事前に決めておく。

(2) 相互評価についての指導。

- ・ 今回の学習目的を確認する。
- ・ 相互評価シートの空欄は、担当教師の必要に応じて評価項目を追加する。
- ・ 聞き手は発表中、話し手のほうに体を向けてしっかり聴くように指導する。スピーチが終わってから相互評価シートを記入させる。
- ・ 大切なフィードバックなので、発表をよく聞いて記入する。良い点だけでなく、気になったこともしっかり書いてあげることを確認する。
- ・ 誹謗中傷のような評価は書かないよう注意する。あくまでもどうしたら良いスピーチになるか、具体的に書くよう指導する。
- ・ 自由記入欄は、単語ではなく、文・文章で書くように指導する。
- ・ 内容に関する素朴な質問も記入してよい。
- ・ 相互評価シートは発表後に回収し、授業の最後に各発表者に渡す。回収は、スピーチを終えた直後の学生が、自分の 1 つ前に発表した学生の相互評価シートを集めるようにすると時間が有効に使える。(発表者はスピーチ後、自分の評価が記入されている間はすることがないため。) 一番目に発表した学生には、最後の学生の相互評価シートを集めることも伝える。

(3) 発表順を決める。

- ・ 発表順に、発表者名をホワイトボードなどに記入させるとよい。

(4) タイマー係、撮影係を決める。

- ・発表が2週にわたる場合、発表しない学生からタイマー係や撮影係を決める。

ポイント・注意点

- ※ 発表者のスマートフォンやデジタルカメラなどのデバイスで動画撮影を行う。教師が撮影してもよいし、学生に撮影係を担当してもらってもよい。
- ※ タイマー係には、「あと1分」「あと30秒」などと大きめに書いたパネルを持たせ、時間になったら話し手に見えるよう掲げる。または「チン」と鳴る道具を使って時間を知らせるなど指導。
- ※ 相互評価シートを回収後すぐに本人に渡すと、読むことに集中してしまい、次の発表者のスピーチを聞かないことがある。それを避けるため、回収後はいったん教師が預かり、全員のスピーチが終わってから手渡すとよい。その場合、回収後は教師に渡すように指示すること。
- ※ 基本的には、匿名で評価シートを記入させるが、誹謗中傷の防止策として評価者の名前を記入させてもよい。

(2. リハーサル [10～20分])

準備編で時間がなかった場合、発表の直前にリハーサルを入れるか、省いてもよい。

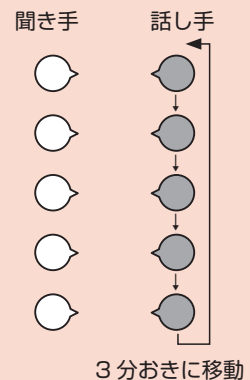
例 1

グループの中で1人ずつ練習を行う。聞き手は時間を計ったり、話し方をチェックしたりする。

例 2

全体を2列に分ける。右側を話し手、左側を聞き手とし、時間ごとに移動しながら聞き手を変えて話す練習を行う。数回行ったら、役割を交代する。

例 2



3. 個人発表と相互評価

目的

発表と評価の実施。

手順

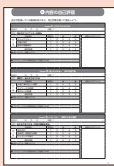
- (1) 1人ずつ前に出て、発表を行わせる。
- (2) 個人の発表終了ごとに、聞き手に相互評価シートを記入させる。その間に、教師は発表者に口頭でフィードバックを行う。
- (3) 話し手にはクラスメートから回収した相互評価シートを持ち帰らせる。

ポイント・注意点

- ※ 学生の人数が多い場合、発表は2週に分ける。
- ※ 各発表後に（発表者以外の学生が相互評価シートを記入している時間内）教師は発表者に対して個人的にコメントする（他のクラスメートに聞こえないように隅で行うとよい）。もしくは、教師から見た良い点や改善点をクラスで共有する形でもよい。
- ※ 発表直後の学生は、緊張からの解放により教師のフィードバックが耳に入らない場合がある。安静してから行うか、短いコメントに留めておくとうい。
- ※ まず、良かった点、頑張った点などのコメントを先にいくつか伝える。注意点を口頭で伝える場合は、最後に1つだけ伝える程度にするとよい。
- ※ 全員の発表が終わったあと、総評をコメントしてもよい。その場合は、良かった点と改善点の両方を伝えるようにする。
- ※ 留学生の場合は、日本語の誤用などについても適宜フィードバックを行う。

4. 宿題の確認 [5分]

テキスト別冊



手順

- (1) 自己評価シート（**テキスト**の別冊）について説明をする。
- (2) 自己評価シートを記入し、翌週提出させる。
 - ・ 自分の発表体験やクラスメートからの相互評価シートをもとに、自己評価シートを記入する。
 - ・ 自由記入欄には、なるべく具体的な自己分析を記入する。

ポイント・注意点

- ※ 教師は自己評価シートにフィードバックなどを記入し、次回、返却する。
- ※ 自分の発表動画を見て、自己評価シートを書くときの参考にするように指示する。